

助成事業実施報告書

団体名 おむすびの会

代表者・役職名 氏名 山崎 もも子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

フードパントリー

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

月1回の食品の配布の他、各種団体の助成による食品の配布を随時行う。現在約45世帯の配布希望世帯があり、ひとり親家庭、年金のみの高齢者世帯などが多いが、新型コロナウイルス感染症の影響で生活が苦しくなった家庭などにも対応できるよう、本人からの配布希望があれば理由を問わず配布を行っている。

利用者にアンケートをとり、家族構成や好みにより配布する食品を個々に調整している。また、配布時に積極的に声かけを行うことで、利用者地域とのつながりを作り、孤立を防ぐ。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

食品配布希望家庭の増加により、当初予定の月1回の配布では配布しきれなくなり、月2日、計24回の配布を行った。令和5年3月末日現在、大井町内45世帯111人に配布を行っている。この事業により、困窮家庭の栄養不足改善、食費の負担軽減、QOL向上が図れた。また、対面受け渡しとし、配布時に声かけをするなど、配布家庭とのコミュニケーションをとることで、地域での孤立を防ぐ役割も担っている。利用者の方から、「ひとり親で大変なこともあるが、応援してもらっていると感ずることができ頑張ることができている。」という声もいただいた。おむすびの会設立から1年経過し、町内外での認知度も上がり、個人で野菜、果物類を育てて寄付して下さる方や、町内企業様から食品の提供をいただくことができるようになったりと、この活動を理解して下さる方も増え、支援の輪が広がっている。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

配布希望家庭の増加により活動日が増えたことで、ボランティアスタッフの確保が難しくなっている。この活動を長く続けていくためにも、スタッフの活動環境の整備に努めたい。町内で児童扶養手当の受給資格があるひとり親家庭が180世帯ほどあるそうだが、おむすびの会に登録しているひとり親家庭は20世帯ほどで、需要はもっとあると予想されるので、今後は広報活動にも力を入れ、支援の受けやすい受け渡し方法や配布日時なども調査し対応していきたい。今後も必要な方に必要な支援が届くよう、大井町、社会福祉協議会、近隣フードパントリー団体、困窮者支援団体などと連携して活動を続けていきたい。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

